



本件照会先

松尾 颯汰（調査担当）
帝国データバンク
福岡支店情報部
092-738-7779（直通）
tdb.fukuoka@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/08/05

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

九州・沖縄 製麺業者売上高ランキング 福岡県内の企業が 上位に並ぶ

売上高 10 億円以上の業者は 8 社となった

九州・沖縄 製麺業者売上高ランキング(2025 年)

SUMMARY

2025 年の九州・沖縄地区 製麺業者の売上高ランキングでは、(有)一蘭(福岡市)が約 111 億 6200 万円でトップとなり、(株)めん食、(株)マルタイが続いた。九州・沖縄地区で年売上高 10 億円以上の業者は 8 社となった。

※帝国データバンク福岡支店は、企業概要データベース「COSMOS2」(約 151 万社収録)から、九州・沖縄地区に本社を置く、麺類製造業者を抽出。2025 年(2025 年 1 月～2025 年 12 月期)の売上高をランキング形式でまとめた(売上高には一部推定を含む)。本調査は今回が初めて

売上高ランキング (有)一蘭がトップ

2025 年(2025 年 1 月～2025 年 12 月)の九州・沖縄地区における製麺業者の売上高ランキングを集計した。

トップは**(有)一蘭**(福岡市)となった。ラーメン専門店「一蘭」を運営する(株)一蘭の製造部門として製麺業を主業とし、スープ、チャーシューのほか、食器や割り箸などの副資材卸も手がけている。(株)一蘭においてインバウンド需要の拡大に加え、新規店舗の開設や、原材料価格の上昇に伴う値上げが実施されたことにより、当社の販売数量の増加および販売単価の上昇が進み、2025 年 7 月期の売上高は約 111 億 6200 万円となった。

2 位は**(株)めん食**(福岡市)となった。当社は、スーパーやコンビニに対し、うどんやそば、ちゃんぽんの調理麺製造・販売を主業として、弁当製造や麺製造も手がけている。主力の調理麺製造部門では、前期に行った値上げの効果やカップ麺の受注が好調だったことに加えて、米の価格高騰により麺の需要が高まったことで同部門は増収となった。麺製造部門では、うどん麺やそば麺、ちゃんぽん麺などの麺類を1玉ごとにパックした茹で麺や生麺を製造している。「九州大地」シリーズを主体として製造しており、深耕営業や新規開拓の効果により前期比増収となり、2025 年 3 月期の売上高は約 98 億 6000 万円となった。

3 位は**(株)マルタイ**(福岡市)となった。当社は、即席の棒ラーメンおよびカップめん、皿うどんなどの製造を手掛けており、販路は食品商社などを經由して、全国の小売店に分散している。棒ラーメンについては、「マルタイラーメン」、「屋台九州味棒ラーメン」のほか、九州ご当地シリーズ(博多、熊本、長崎、鹿児島、宮崎、佐賀、大分、久留米)を製造している。さらには、健康志向の高まりを受けて、健康を意識した低カロリー製品の開発といった取組も進めている。商品の販路拡大や価格改定を実施した影響もあり、2025 年 3 月期の売上高は前期比増収の約 96 億 400 万円となった。

このほか上位 5 社には、うどん、そば、中華麺など麺類全般の製造販売を行い、「五木うどん」や「五木そば」のブランド名で知られる**五木食品(株)**(熊本市)が 2025 年 8 月期の年売上高約 72 億円で 4 位。東洋水産(株)の生産工場として、「マルちゃん」ブランドのラーメンやうどん、そば、焼きそばなどのカップ麺・袋麺などを製造している**伊万里東洋(株)**が 2025 年 3 月期の年売上高約 53 億 9900 万円で 5 位にランクインしている。年売上高 10 億円以上の業者は 8 社にとどまり、中小規模の事業者が主体となった。

製麺業者の売上高ランキング 上位 5 社(2025年)

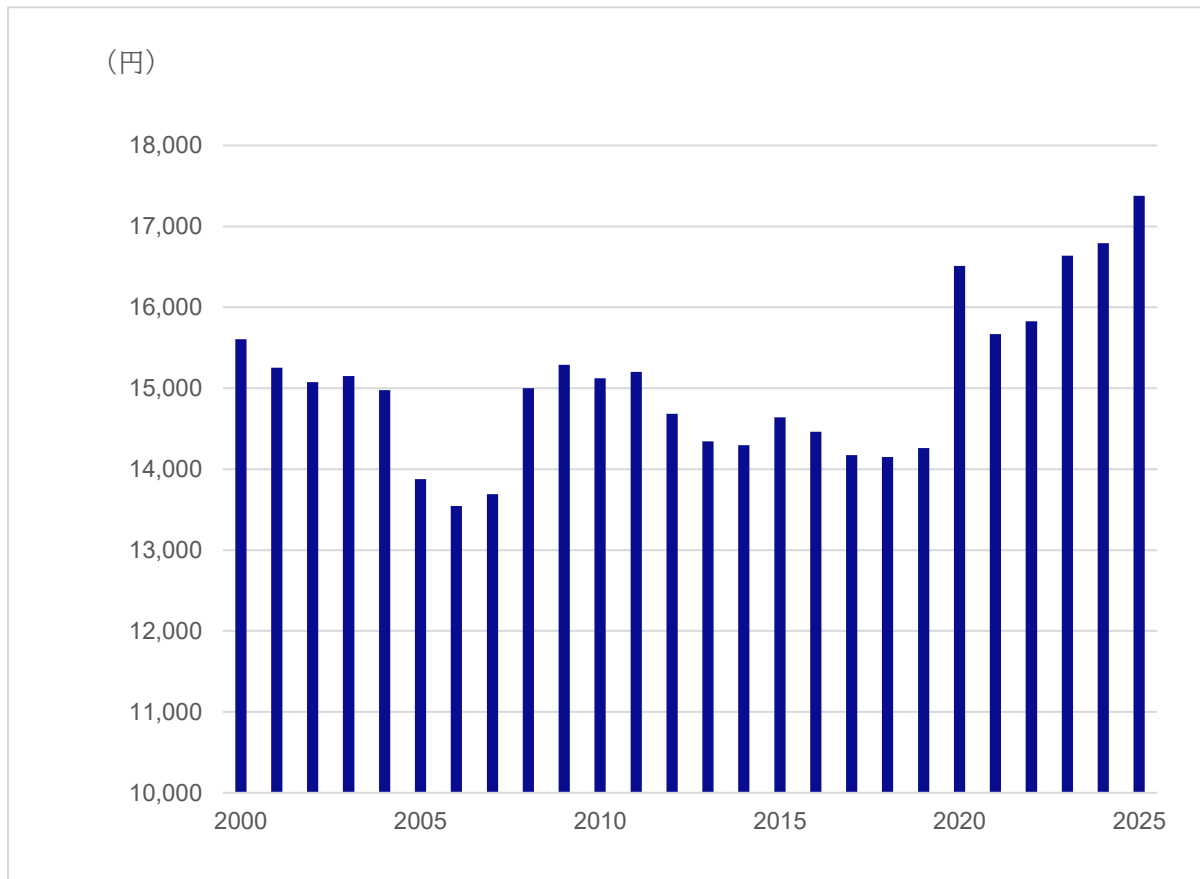
順位	商号	所在地	決算期	最新期業績売上高 (単位:百万円)
1	(有)一蘭	福岡県糸島市	7	11,162
2	(株)めん食	福岡県新宮町	3	9,860
3	(株)マルタイ	福岡市	3	9,604
4	五木食品(株)	熊本市	8	7,200
5	伊万里東洋(株)	佐賀県伊万里市	3	5,399

麺類全般への家計消費支出額は微増

総務省統計局の資料によると、麺類全般に対する家計消費支出は、長期的にみて緩やかな増加基調にあり、近年も高水準で推移している。原材料価格や物流コストの上昇に伴う価格改定の影響が支出額を押し上げる一方、物価高による節約志向の高まりを背景に、家庭で手軽に調理できる麺類への需要は堅調に推移している。

支出額の増加は必ずしも消費量の増加を意味するものではないが、価格上昇下においても消費が維持されている点から、麺類市場は安定した需要基盤を有しているとみられる。

1世帯当たりの麺類への支出金額(2025年)



総務省統計局「家計調査」2025 参照 2026年2月6日発表分

まとめ

2025 年の九州・沖縄地区における製麺業者売上高ランキングでは、(有)一蘭が約 111 億 6200 万円でトップとなり、2 位に(株)めん食の約 98 億 6000 万円、3 位に(株)マルタイの約 96 億 400 万円が続いた。年売上高 10 億円以上の業者は 8 社にとどまり、中小規模の事業者が主体となった。

売上高上位の製麺企業は、トップの(有)一蘭を除き、うどん、そば、中華麺、パスタなど複数種類の麺を製造しており、特定の麺に依存しない事業構造を構築している。また、製麺事業だけでなく、総菜品や調理済み食品の製造、食品卸売事業なども展開することで、収益源を多様化している。このような多角化により、季節需要の変動や特定商品の販売不振によるリスクを低減し、経営の安定化を図っている。

業界として供給面では、生産者の高齢化や後継者不足、人手不足の深刻化に加え、小麦粉や包装資材などの原材料価格、エネルギーコスト、物流費の上昇が収益を圧迫している。また、そうめんや冷やし中華麺などの麺類は夏場に需要が集中する傾向が強く、年間を通じた販売量の平準化が難しくなっている。さらに、需要面では少子高齢化や人口減少の進行により国内市場そのものの大きな拡大は期待しにくいことが業界共通の課題となっている。

総務省統計局「家計調査」によると、麺類に対する家計消費支出額が近年増加傾向にあり、2025 年には 1 世帯当たりの支出額が前年比 3.5% 増の 1 万 7,378 円となった。原材料価格や物流コストの上昇による価格改定の影響はあるものの、節約志向の高まりを背景に家庭で手軽に調理できる麺類への需要は引き続き堅調であり、麺類市場は安定した需要基盤を有しているとみられる。

九州・沖縄では、豚骨ラーメンや五島うどん、ちゃんぽん麺など多様な麺文化を有していることが強みである。こうした地域固有の食文化は他地域との差別化要因となり、県外市場やインバウンド市場における需要拡大の可能性を有している。近年は、健康志向の高まりや人口減少、食生活の多様化により、地域ブランドに依存した従来の商品展開のみでは持続的な需要拡大が難しくなっている。

今後は製造工程の自動化や省人化による生産効率の向上に加え、ブランド力を活用した販路拡大や付加価値向上への取り組みが重要となる。特に、生産現場では製麺機や包装機への自動化設備の導入、IoT や AI を活用した生産管理の効率化を進めることで、人手不足の緩和と安定した生産体制の構築が期待される。また、付加価値向上の取り組みとして、企業のなかには伝統的な商品だけでなく、高たんぱく麺や低糖質麺などの機能性に重点を置く企画商品や、バジル麺やごま麺など新たな風味の商品を展開する事例もみられ、差別化による市場開拓が進められている。高たんぱく麺や低糖質麺などの機能性麺は、健康志向の消費者を取り込めるだけでなく、従来のそうめんや冷やし中華麺のような季節需要に依存しない新たな需要の創出にもつながると考えられる。このように、生産効率の向上と付加価値の創出を両立しながら市場環境の変化に対応できる企業が、今後の製麺業界の成長をけん引していくものと考えられる。

九州・沖縄地区製麺企業売上高ランキング(2025 年)

順位	商号	所在地	決算期	最新期業績売上高 (単位:百万円)
1	(有)一蘭	福岡県糸島市	7	11,162
2	(株)めん食	福岡県新宮町	3	9,860
3	(株)マルタイ	福岡市	3	9,604
4	五木食品(株)	熊本市	8	7,200
5	伊万里東洋(株)	佐賀県伊万里市	3	5,399
6	サンポー食品(株)	佐賀県基山町	7	3,211
7	重光産業(株)	熊本県菊陽町	6	2,657
8	(株)小川屋	長崎県島原市	2	1,115
9	フーズアンドフーズ(株)	福岡県朝倉市	12	908
10	(株)五島製麺	長崎市	2	660
11	伊之助製麺(株)	佐賀県神埼市	3	633
12	慶史(株)	福岡県大野城市	5	595
13	(株)エン・ダイニング	長崎県大村市	9	480
14	(株)富士菊	福岡県豊前市	3	449
15	イシマル食品(有)	鹿児島市	7	439